

# 猫のワクチンについて

## 1. 混合ワクチン

混合ワクチンは何種類かの伝染病ワクチンを混ぜたもので、3種混合、4種混合、5種混合、7種混合など様々な種類があります。当院では3種混合ワクチンと5種混合ワクチンを使用しています。各ワクチンで予防できる感染症は以下になります。

### ★猫ウイルス性鼻気管炎

猫ヘルペスウイルスによっておこる病気で、40℃前後の発熱と激しいくしゃみ・咳をして多量の鼻水や目やみを出します。強い伝染力があり、また、他のウイルスや細菌との混合感染を引き起こして、重い症状となって死亡することもあります。特に子猫の時にはかかりやすく、高い死亡率を示す場合もあります。また、回復してもウイルスは体内に残り、ストレス等で再発することがあります。

### ★猫カリシウイルス感染症

猫ウイルス性鼻気管炎と類似の風邪のような症状を示しますが、進行すると口の中や舌に水疱や潰瘍を作ります。一般的に猫ウイルス性鼻気管炎よりは軽い症状ですが、混合感染する場合は多く、この場合は重い症状となります。回復後もウイルスを排出し、感染源としても注意が必要です。

\* 複数の血清タイプがあります。

### ★猫汎白血球減少症

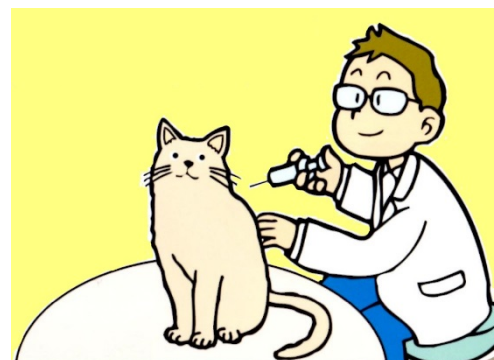
パルボウイルスによる病気で、高熱、嘔吐、下痢などの症状を示し、血液中の白血球の数が著しく少なくなります。脱水症状が続くと猫は衰弱し、特に子猫では非常に死亡率の高い伝染病です。また妊娠猫がかかると胎児に影響します。

### 猫白血病ウイルス感染症

免疫機能の抑制、貧血、リンパ腫の原因となり、症状は様々です。感染猫の血液の中や唾液、涙の中には大量のウイルスが存在し、尿や糞便中にも含まれます。一般的に感染猫とのグルーミングや食器の共有などによる長期接触によって感染が成立します。発症すると治療が困難で、死亡する危険性の高い怖い病気です。

### 猫クラミジア感染症

主に子猫が発症し、結膜炎と上部呼吸器症状がみられ、感染が持続することもあります。まれに、一過性の発熱、食欲不振や体重減少が起こります。猫同士の接触でうつり、まれにひとへの感染も起こります。



(3種混合ワクチンの対象は印の感染症です)

## 2. 接種時期と回数

当院では、生後8週齢、生後11週齢の2回の接種をしています。その後は、年1回の追加接種をお勧めしています。

- \* 1 生後8週齢以前に初回接種を行っている場合は、その接種時期により、子猫の間に2～3回の接種を行うこともあります。
- \* 2 生後16週齢以上経ってから始めてワクチンを接種するときには、初回接種と、3週間～1カ月後の2回目接種を行い、その後は毎年1回の追加接種をお勧めしています。

## 3. ワクチンの副作用について

ワクチン接種後には、少々熱が出たり、少し元気が落ちたり、注射部位に違和感を示したり、ということが1～2日間みられることがあります。これは体の免疫システムが正常に反応しているだけなので、あまり心配ありません。時間の経過と共にほとんどの場合、症状も消失します。

ごくまれに顔面が異常に腫れたり、吐いたりなどの症状が出るときがあります。その場合は、適切な処置が必要になりますので、速やかにご連絡下さい。

#### 4. ワクチン後の注意点

激しい運動、シャンプーは避け、2～3日間は安静にしてください。

#### 5. ワクチンで予防出来ない伝染病について

伝染病にはいろいろな種類があり、現在の日本では、ワクチンで予防できない伝染病もあります。

##### ● 猫免疫不全ウイルス感染症（猫エイズ）

猫免疫不全ウイルス感染症は、感染末期にはエイズ症状となるため猫エイズとも呼ばれています。ウイルスは血液や唾液に含まれており、感染猫とのケンカで咬まれたりすることによりうつります。感染の危険度は猫の年齢や生活様式によって異なりますが、一般的に3歳以上で外出可能な雄猫に多く見られる伝染病です。

〔このウイルスは猫属のみに感染するもので、人への感染はありません〕  
現時点では有効な治療法がないので、陽性猫との接触を避けるようにして、感染を予防することが重要になります。

##### ● 猫伝染性腹膜炎

腸コロナウイルスの突然変異株により引き起こされます。腸コロナウイルス自体は広く蔓延しているのですが、病気を起こす性質が弱くほとんどの猫は発症しません。しかしある猫の体内でこれが突然変異を起こすと、病気を起こす力の強い猫伝染性腹膜炎ウイルスになります。猫伝染性腹膜炎ウイルスは猫から猫へ伝染はしません。

症状は、腹膜炎により腹水が貯まるウェット型が一般的、中枢神経や目に異常をきたすドライ型もあります。一般に、発病した場合はその後徐々に病気は進行する傾向にあり、死亡率は非常に高いとされています。

ストレスや他のウイルス感染、その他のファクターが一緒になって突然変異が起こり、その上ウイルスに対する激しいアレルギー反応が起こって発病するのだと考えられています。

有効な治療方法がまだ見つかっておらず、ワクチンもないため、とても怖い病気です。

